



令和3年度 清水小学校だより

令和3年6月1日発行

清水の子

文責 校長 沖島 宏幸

しっかり考える子 ・ 自らよく行う子 ・ すこやかな子



6月1日「いのちを見つめる日」にあたり



今日、6月1日は、「いのちを見つめる日」です。全校朝会では、子どもたちには、次のような話をしました。ぜひご家庭でも、「いのち」について話題にしていただけたらと思います。

人や動物の命は、一度死んでしまってもスイッチを入れたり電池を入れ替えたりしたら、再び生き返ることができると思う人はいませんよね。ゲームの世界ではそういうことができても、この世の中でそういう生き返るといことはありません。自分の命はお父さん、お母さんからいただいたものであり、さらにはおじいちゃん、おばあちゃんからいただいたものです。もっとさかのぼれば、遠い遠い昔からの先祖代々からいただいたたった一つの大切な命なのです。だから、「自分はずまらない人間だ。死んでしまおう。」とか「こんな世の中おもしろくない。死んでしまおう。」など考えては絶対にいけません。また、人に対しても、簡単に「死ね。」等の言葉を言ったり、書いたりしてはいけません。たとえ冗談であっても、絶対にいけません。そしていじめもいけません。いじめが原因で亡くなった人もいます。たった一つしかない命です。自分の命、そして人の命を大切にしてください。

そこで、みんなが気持ちよく、楽しく生活するために、二つのお話をします。

一つめは、思いやりの気持ちをもって欲しいということです。



皆さん、思いやりってなんだかわかりますか。思いやりというのは、友達や周りの人のことを考える気持ちです。人が皆、思いやりの気持ちをもって友達や周りの人に親切な言葉や、親切なことをすれば友達や周りの人はとてもうれしくなって楽しい毎日が過ごせると思います。逆に思いやりの気持ちがなくて、友達がどんな気持ちになるかを考えないで、嫌なことを言ったりしたりすれば、友達はとても悲しい気持ちになったり、怒ったりしてけんかが始まります。皆さん、友達の気持ちを考えて、言ったりしたりしましょう。そこで、自分が言われてうれしいことを友達や周りの人に言いましょ。自分がされてうれしいことを友達や周りの人にしましょ。自分が言われて嫌なことは友達や周りの人に言わないようにしましょ。自分がされて嫌なことは友達や周りの人にしないようにしましょ。友達に何かを言う前に、これを言ったら友達はどんな気持ちになるかを考えてみてください。友達に何かをする前に、これをしたら友達はどんな気持ちになるかを考えてみてください。ぜひ、思いやりの心がある人、友達や周りの人の気持ちを考えることのできる人になってください。

二つめです。それは感謝の心、ありがとうという心をもって欲しいということです。

皆さんは、掃除の時に使うぞうきん、いつも使っていますよね。このぞうきんについて、大阪にお住まいの榎本栄一さんという方は「ぞうきん」という詩の中で、「ぞうきんは 他のよごれを いっしょうけんめい拭いて 自分は よごれにまみれている」とうたわれています。榎本さんにとって、このぞうきんは単なるボロギレではないのです。光り輝いているのです。榎本さんは、このぞうきんに対して、ありがとうという思いで手を合わされています。ぞうきんにも命があるのですね。

また、愛知県にお住まいの宇野正一さんは「まな板」という詩を書かれています。「まな板の上に たくわんさま 人参さま おねぎさま れんこんさま 大地から いただきましたものばかり それをきざんで いのちにする」食べ物の一つ一つが、命に輝いています。しかも、それらはみんな、大地からの「いただきもの」なのです。ですから「たくわんさま、人参さま、おねぎさま、れんこんさま」と「さま」をつけて呼ばずにはおれなかったのです。これらのものにも命があるのですね。

全てに対して「ありがとう」という感謝の気持ちをもってほしいと思います。「ありがとう」は、魔法の言葉です。

これからも、命を大切にしていましょ。自分を大切にしてください。そして、周りの人も大切にしてください。そうすれば、みんなが楽しく安心して暮らせます。皆さんならきっとできるはずですよ。みんなで笑顔いっぱいの清水小学校を作っていましょ。